

14 光をもたらしてくれた子ども

【里母】

今、2人の女の子を預かっています。実子はいません。

一旦は「夫婦で子どもなしで人生生きていこう」と決めましたが、やはり何か薄雲りの空のようで気持ちが晴れませんでした。主人とも相談し、当時の養育家庭センターで募集していた養子縁組里親に登録しました。しかし、待機していた1年を経て、子どもを育てたいという思いがあれば、養子縁組ではなく養育家庭でも子育てはできるのではないかと思い、登録を切りかえました。

それからしばらくして、児童相談所から、「もうすぐ3歳になる女の子に会ってみませんか」とお話がありました。「はい、ぜひ」と乳児院へ向かいました。

子どもの姿を見て、「何てかわいいんだろう」と思いました。交流を重ねるうちに、子どもも徐々に私たちを意識するようになり、交流に行くたびに泣いていました。「この子に嫌われたのかな」と、ちょっとショックを受けましたが、よくよく考えてみれば、子どもも、この人たちがお父さん、お母さんになってくれるんだろうか、ちょっぴり嫌だな、それともどうかなと様子を伺っていたのかもかもしれません。

外泊交流で初めて我が家に来たときもとても緊張していました。乳児院とは違い、普通の家庭で、大人2人とその子だけ。周りに子どもはいません。言葉をかけても首振り人形のように首を振るだけ。しかし、私たちも知らない家では、しゃべらないほうが正常ではないかと思えます。とにかく、言葉をかけながら接していました。外泊が終わり、施設に帰ると、子どもは「あー、よかった」という安堵の表情を浮かべて、施設の先生のところへ行き、私たちには「ばいばい」なんてしていました。

その後も交流を続け、互いに関係を深めて、いよいよ我が家に来る日は「じゃ、おうちに行こうね」と言うと、施設の先生に「さよなら」と言ってやってきました。

我が家での生活がスタートし、一つ一つ言葉をかけながら、一緒に歌を歌いながら、お散歩しながらと、だんだんと互いに慣れていきました。その後、子どもはとてもよくしゃべるようになりました。しゃべることが好きで、性格は明るく、元気潑刺。静かに沈んでいた我が家にまさに光がやってきたという感じでした。

我が家に来てから1年くらいたったころでしょうか。うそをつくようになりました。単純なうそではなく、上手にうそをつきます。もしかしたらこの子はうそを本当だと思っているんじゃないかと思うほどのうそをつきました。

ある日、食事中に「お腹が痛い」と言いました。あまり好きではないおかずだったのです。しかし、丁度帰宅した主人が買ってきたお菓子を食べたかったので、困った表情をしていました。うそとは言えず、あれこれ理由をつけて結局ご飯もお菓子もしっかり食べたのでうそとわかりました。夜布団に入ってから、「今日は一日楽しかったね」と声をかけ、「お腹はもう痛くない？」と聞くと子どもがおろおろするのです。やはりうそが通るものだと思わせるのは良くないと思い、聞きたくなかったのですが、「本当に痛かったの」と聞きました。すると「え

一ん」と泣き出すのです。私が「うそはいけないよね」と言ったら、「うん、わかってる」と言うのです。しかし、「あなたは耳で聞いていて、心で聞いてないでしょう。人の話を聞くということは心で聞かないとね」と言いましたら、「うわーん」と大泣き。「お母さん、しかってくれてありがとう。うわーん」と。しかってくれてありがとうには、びっくりしました。そして「乳児院にいたときにうそをついたことある？」と聞くと、「いっぱいついたけど先生は叱らなかった。だからいいと思った」と話してくれました。今はほとんどうそをつくことはありません。

我が家での生活にすっかり慣れ、その後「妹がほしい」と言い出しました。私もきょうだいがいたら本人のためにもいいと思い、もう一人受け入れることにしました。そして、小学校入学のころに、待望の妹がやってまいりました。

妹は、上の子とは全く違う性格でおっとりとしています。お姉ちゃんは元気潑刺、にぎやかで陽気。妹はおっとりとしてのんびり、マイペース。何とまあ、性格の違う子どもが我が家に来たことか。私は、いろいろな性格の子どもたちを育てさせていただけ、ありがたいと思いました。そして、私たち夫婦は子どもと接する中で楽しみが増えました。一つ一つやることも性格も違いますから、その様子を見ながら、くすくす笑ったり。とにかくありがたいと感ずることばかりです。

お姉ちゃんは小学2年生になり、友達がたくさんいます。子どもが話しかけてきたときには、きちんと聞く。すると子どもも学校であったことなどよく話してくれます。そして、「何かあってもお母さんはあなたの味方よ」と伝えていきます。家事に追われる中でも、妹は「お母さん、遊んで」ときます。少しでも子どもとの時間を持ちたくて、洗濯をしながらでも、ご飯の準備をしながらでも、話しかけていきます。

我が家は通称名を使っていますが、お姉ちゃんとは名前の話もよくして、話すたびにきちんと説明しました。最近、「お母さんは私のお母さんだけど、私を生んでくれたお母さんってどこかにいるの？」と聞くようになりました。「いるよ、生んでくれたお母さんはちゃんというのよ」と話しました。「会ってみたい？」と聞くと、「うん、一度会ってみたいな」と言います。妹にも「あなたは〇〇という名前なのよ。みんなそれぞれ名前が違うのよ」と話しています。4歳になったばかりの妹も少しずつわかってきているようです。「ここのうちにずっといていいの、お母さん」と聞くので、「いいよ。ずっといてもいいよ」と伝えると、うれしそうに顔を上げてにたっと笑ってくれます。

私は、この子たちは、ずっと私たちの光であり続けると思っています。薄暗い空のようだった気持ち、子どもが来ることによって明るくなり、もう一人やってきてまた明るくなりました。子どもは光をもたらしてくれます。

これからも我が家に来た子どもたちを大切に育てていきたいと思っています。

15 夫と仲良しになった陽気なちびちゃん

【里母】

娘2人と息子1人が独立し、今は私と夫、里子のちびちゃんを迎えた3人家族です。

私は、長くボーイスカウト活動を続けながら、様々な子育てのボランティアにも関わってきました。たまたま市報で養育家庭を知り、現住所に越したことをきっかけに夫に「こういうことがあるんだよ」と話したら、気軽に「うん」と返事してくれたので登録に至りました。

昨年1月頃に里子さんのお話が来て、急に夫と一緒に施設に会いに行くことになりました。その途上、ずっと夫は「相性が合わなければ断れるんだよね」と何度も何度も聞いてたんです。多分、夫は「他人の子どもは難しい」と思い込んでいるところがあったのでしょう。

私の方は、ちびちゃんと会ってから、その月に4回、数時間のお遊びやちょっとした買い物でおやつを買うなどして、2月には1泊のお泊りを経験させるということで3回ぐらい来たと思います。3月からは週に1回、今週は1泊、来週は2泊と徐々に交流を増やしていきました。

4月からは小学校に就学だったので、それに向けておうちで過ごせるように進めていきました。

ちびちゃんがおうちに来た初めの頃に夫が、正面で両肩を持ってすごい迫力で「うそはつくな」と言ったのがかわいそうでした。背筋をぴんとし、しゃきっとして聞いてました。でも、このちびちゃんはすごくひょうきんな子で、陽気で笑い系が大好き。その性格ですごく助かっているんだと思いますが、それなりに無理なく学校に通えるようになったんです。

最初の保護者会とき、お母さん方が1人ずつ自己紹介をしました。私は、初めての里子で何もわからない状態だったので、そのことをお伝えして「何かありましたら、どんな些細なことでもいいですからご連絡ください」とお母さん方にお願ひしましたら、同じクラスのお母さんたちも協力してくれるようになりました。結構忘れ物が多い子なので助かりました。

入学して困ったのが、文字や数字がよく読めないことでした。毎日、家でワークブックを使い、簡単な復習をプリント2枚ぐらいから、だんだん3枚へと増やしていきました。文字が書けるようになったら本を読もうと、昔話みたいな簡単な絵本から、それも今日はこの1ページ、これが読めるようになったら次は2ページずつと、少しずつ増やしていきました。半年もしないうちにちゃんと絵本が1日1冊読めるようになって、そうしたら楽しいのか、自分で図書館に本を借りに行くようになりました。しょっちゅう好きな本を借りてきては、ぱらぱらと読んで満足感だよ、という感じで結構楽しむようになりました。

友達が皆スポーツクラブに行ったり、お勉強に行ったり、お稽古に行ったりで遊んでいないので、うちの子もどこかに入れようか、ぜんそくがひどかったのでスポーツをやらせてみよう、と、1日体験したらサッカーがおもしろいということで入会しました。これが週3回、月12から13回もありました。それから、海が全然楽しめなかったのが泳げるようにしよう、とスイミングスクールにも入れました。こちらは全然進歩しませんが、週1回「おもしろかった」と言って帰ってきます。こんなことで一週間のうち4日か5日は、結構忙しく過ごしています。

陽気な面はいいのですが、テンションが上がり過ぎるといろいろトラブルを引き起こします。

学校で友達にけがをさせたとか、人の持ち物が気になり、例えば6色のえんぴつがどうなっているか知りたいと折って調べてみるとか、思った途端にすぐやっけてしまいます。担任の先生が、人の物にこうしてはいけないとか、悪いことをしたらお母さんと一緒に謝りに行きなさいとか、上手に持っていってくれるので、とても助かっています。

一番私を悩ませたのは、1年生の「自分史」です。自分の名前の由来、生まれたときの自分、親や周りの人たちの気持ち、今までどう育ってきたかなどを発表をする授業でした。

児童相談所にお電話をかけて「こういう問題が来たんですけどこの辺はどうなんですか」と確認したり、母子手帳をひっくり返して「こんなに病気をしてたんだ」と思いながらそれを書いてあげたり、子どもをあまり傷つけないように、どうにか前向きになってほしいと思って、一生懸命うそにならないような文章づくりをして、苦労しました。

今では、子どもが自分のペースで、このうちではこうやって暮らしていくとうまくいくんだと覚えてくれたし、こちらもこの子はこうなんだというのがある程度わかってきたので、すごく楽になりました。

夫もすごく変わりました。夫は、口うるさくて、子どもとのかかわり合いは難しいと思っていましたら、それががらっと変わり、不思議なくらい2人の気が合うようになりべたべたとします。「おじちゃん寝ようよ」なんて言われて「うん、うん」と布団を敷きに行きながら、夫も子どものペースで8時半ぐらいになると布団に入って寝ちゃうんです。

私がどちらかというと小言を言う分、夫が優しく、ちびちゃんにとっては両方うまくバランスが取れて、都合の良い家庭になってきているのかなと思います。最近、額にしわを寄せていたのが、すごくおっとりとした顔になってきているので、私にしてみればすごくうれしいと思いながら眺めています。

また、ちびちゃんは、里帰りする息子や娘たちとのかかわり合いも楽しみにしていて「いつ来るの」とわくわくして待っているようです。今は、気楽な里親生活をやらせていただいております。



16 縁を感じる里子との長いつきあい

【里母】

私は、もともとひとり親で母子家庭として子どもを2人育てておりました。

お子さんがうちに来てから、2年半ぐらいになります。里親制度に興味があったり、社会貢献がしたいということではなく、その子が友人の子で小さいときから交流があり、その中で児童相談所の方々から助言していただき、結果として今里親という形でその子をお預かりさせていただいております。

出会ったきっかけは、まだ彼が小学校の低学年ぐらいで、遠くの病院にずっと入院していて、友人が彼の養育を十分にできておらず、お見舞いにも滅多に行ってあげていませんでした。一緒に面会に行ってもらいたいという話が出たので、ちょっとした好奇心というか、小さな子どもが長いこと遠くの病院で闘病しているというのはどんなことなんだろうなというような軽い気持ちでつき合ったのが初めて出会ったきっかけです。そのときの印象というのがすごく鮮烈で、お母さんが一生懸命抱っこしてあげたり、頬ずりしたり、それなりに愛情を表現するのですが、絶対に目を合わせようとしないし、最後に顔も見ないで自分だけふっと帰ってしまうような感じがあって、それがうちの子どもに似ているなという印象がありました。小さいながら、自分が要求してもかなえられないことがあるということがよくわかっていて、泣いてもわめいても無駄なんだったら僕は泣きもしないし、わめきもしないよというふうに表示しているような感じがしたのです。後の里親研修で先生が、里親さんが初めて里子さんと会ったときに、自分の身内のだれかに似ているというような印象を持った方って結構うまくいくんですよという話をしていましたが、初めて会ったときのことを思い出し、なるほどなと思ったのを覚えています。

それから私一人で面会に行くようになりました。何のよりどころもないような環境の中で、放っておかれるというか、そういう生活をしている彼に対し、継続的にずっと変わらないものでいてあげたいなというふうに思いました。

その後退院をして施設入りました。やっと遠くから近くの施設に移ることができて、彼はとってもうれしかったみたいで、「あそこだよ」と言って施設の明かりを指差してかけていったんですね。よかったな、近くなったし、やっぱり施設は彼にとってはより居心地のいいところだったんだなと思ってすごく安心しました。それからは手紙を書き、返事は1枚も来たことはないのですが、とにかく私はずっと気にしているし、つき合っていきたいと思っていますというのを伝えることにしました。

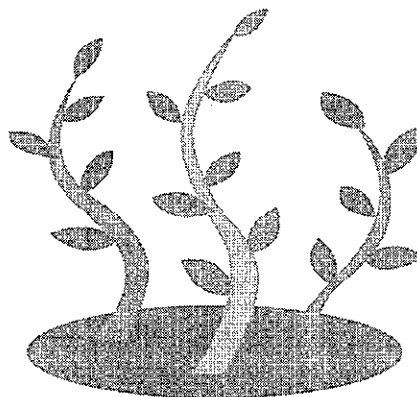
そのうち、結局また子どもへの面会が、だんだん友人自身遠のいてしまってきて、何となくそれを補うような感じで、私がまたちょこちょこ行くようになり、フレンドホームの制度を利用させていただいておつき合いを続けるようになりました。

結局、おつき合いをしていく中で、ある程度大きくなると、小さいころみたいに一緒に外出しても、そこで何か話が弾むということが少なくなり、そうしたら関係が終わっちゃうなと思ったので、それだったらばうちに来てもらって、一緒に生活する中で別に何を話すでもなく、

一緒にご飯を食べたり、一緒にテレビを見たりというような形でつき合っていくのがいいのかなと思いはじめました。そんな時担当の福祉司さんが養育家庭制度を勧めてくださって、中学3年から来るということになりました。うちに来ることが決まり、お泊りをしたときに印象に残っていることは、すごいため息を漏らして、「僕はこれから一体どうなるんだ、不安だ」と言い、「何で」と言ったら、「普通の家で暮らしたことがないし」と言うので、私も何でこんなこと言うのかわからなかったのですが、そんなに普通の家で暮らすことが大変なことなのかなというぐらいにしか思いませんでした。実際に来てからもそんなに違和感がなく、彼は気を使っていることがあるのかもしれませんが、こちらが困ったことというのはありませんでした。実子ももう大学生で、児童福祉心理学を勉強していたので、大学の里親制度の講義で、手を挙げて「うちやってます」と先生に言ったら、講義中にいろいろなことを質問されたというのを聞き、私は結構助けられたと思っています。

今悩んでいることは、彼の成績が下がっており、預けたことで悪くしてしまったという印象で、勉強もちゃんとやっていた子なのですが、ただうちの実子と比べるとすごくこの子はいいなと思えるので、そういうところがバランスがとれているといえますか、世の中の目を広く、視線を広く持てば、問題ないというか、少しぐらい逸脱していても、自分のできるぐらいでいいのかなという気持ちも半分はあります。ただこれ以上悪くなってしまうたら、ちょっと相談しなければと内心思っています。

あと、実親さんとおつき合いも、けんかしながらも続いていて、ある意味で楽、頭に来ることもあるけれども、お母さんの不器用ではあっても子どもへのすごく強い気持ちというのは、私が負けてしまうほどです。うるさいし、一緒に住むのは嫌だけれども、でも僕のことをいつもすごく気にしているお母さんという人がいて、毎日一緒にいる比較的楽ちんな、わかってくれる里親はいるしというぐらいで、私もそういう役割分担ができるのは楽だなというふうに思っています。



17 驚いた習慣

【里父】

里子を迎え入れる前の私の家庭は、私と家内と5歳の長男、祖母の4人家族でした。

子どもは5歳になると手がかからなくなり、トイレ行っても「お父さん、おしりふいて」って出てきた子どもが、全部自分でできます。「僕がやる、僕できるから」と言い、しだいに自分の手から離れてちょっと寂しくなり、もう一人子どもが欲しいな、子どもに兄弟が欲しいなと思いましたが、結婚が遅く、家内は高齢出産でかなり難産、体が弱いということもあり、自分の子どもはもう無理かなというのがありました。

そんな折、家内がこの発表会を何かで知り、里親制度を知りました。私は、以前から自分のできる範囲で人様のお役に立てればいいなと思っていたので里親の申請をし、認定、登録しまして、里子と交流が始まりました。

1歳10カ月の男の子を紹介していただき、写真を見せてもらい、とても食いしん坊の元気なお子さんですということで、乳児院に行くところから交流が始まりました。

3カ月くらい毎日通いました。最初はきよとんとしていたのが、1~2週間経つうちに顔を見ると満面の笑みで迎えてくれるようになりました。

そんなとき神社のお祭りに行ったのですが、何も欲しがらないんです。風船のヨーヨーを買ったと記憶していますが、買って帰ったところ、余り喜ばない。どうしたのかなって考えたら、施設にいと自分の物がなく、全部がみんなの物、そういうことで自分の物に固執しないところがあるんだなというのを感じました。

交流が進み、外泊するようになりました。食事ですが、乳児院には小さなプレートがあり、御飯のお茶碗、その御飯におかずが入っていて、おみそ汁とお茶があります。うちに来て食事を出したとき、全然食わず、おかしいな、食いしん坊の坊やって聞いていたけれど、どうしたのかなと思い、施設のと同じような形にしたらぺろぺろと食べちゃったんです。ちょっと驚きました。

あと、お風呂に入れるとき、自分は裸にされるのはいいのですが、親が脱ぐと怖いといって泣いちゃうんです。今までは自分が裸にされ、面倒見る人はエプロンをしたまま裸にならず洗ってもらうわけです。家に来ますと、皆な一緒に入りますから、洋服を脱ぐと大騒ぎ、ものすごく泣くんです。とても驚いたのと同時にちょっとかわいそうといいますが、普通の家庭でないところで育ったので、そうなのだと思います。

それと、乳児院だと子どもがたくさんいて、面倒見る方が少ないということもあって、お昼寝も一人で寝かされちゃう。うちに来て、昼寝の時間に寝かそうと思って一緒に添い寝して歌うたったり、体たたいたり、あやしたりしても寝ないんです。どうしても寝なくて、一人で放っておくと寝るよというのを知識で知っていたので、部屋を閉めて一人にしておくと、最初は自分で遊んでいるんですけどもすやすや寝ちゃう。これまたちょっとかわいそうだなと思いました。普通だと添い寝して寝かしますのでもちょっとふびんというのか、かわいそうだなと思いました。

もう一つ驚いたのは、よく食べることです。大人と同じぐらい食べて、こんなに食べて平気なのかなというぐらい食べます。後になって正式な委託を受けていろいろな研修で先輩の里親の方からお話を聞く機会があったのですが、どこでもたくさん食べるということで、ある時期が来ると普通に帰りますので好きなだけ食べさせてくださいと言われて、それでほっとしたというのを覚えています。

いよいよ委託を受けて我が家に迎え入れることになりましたが、比較的すんなり飛び込んできてくれました。うちの長男も普通に何ていうことなく受け入れました。

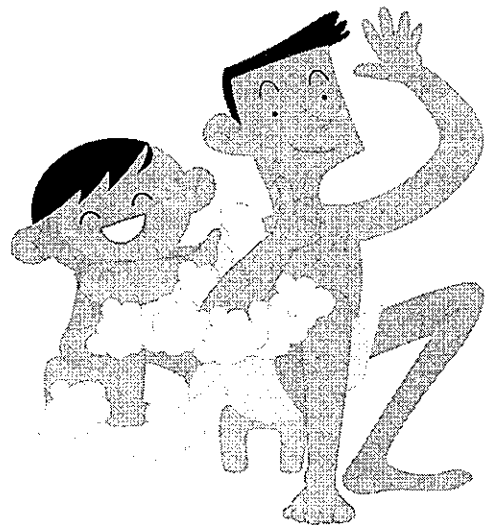
一つおもしろいのは、長男を里子と一緒に小学校に迎えに行ったとき「なんだ、弟がいたんだ」と友達に言われ、「そうなの、弟が来たの」と。それでちょっと笑っちゃいました。友達も「そうなのか、弟が来たんだ、ふーん」なんて言って、子どもってそんなもんなんだなと思いました。実子が里子を迎えて変わったかという、私をとられると思ったのか、里子を抱っこやおんぶ、肩車をしていると自分もしてほしくて抱っこ、おんぶと飛びかかってくる。そんな赤ちゃん返りがあったりしました。

養育家庭では、里子を大きな愛情で包み込むといろいろ聞きますが、基本的には家庭のルールを最優先するとともに、18歳になると社会で自立させなければならないので、そのときに困らないルールなどをしつけておかなければなりません。譲れない点は譲れない、だめなものはだめという、そういうルールでやってきました。

最近の様子ですが、今幼稚園の年長さんに入りました。お手伝いが大好きで、何かやっていると「僕、それやってあげる」っていろいろ手伝ってくれます。友達も随分できまして幼稚園も楽しくてしょうがないみたいです。

里親になってみて、縁というものを特に感じるようになりました。人に話すときも上の坊主とか下の坊主と言って、実子とか里子という区別をせずにいます。

里親制度とは一般家庭の中で生活するお子さんを増やすという意味でも必要で大切な制度です。その制度に自分も参加していることをよかったと思っています。



18 赤ちゃんがやってきた！

【里母】

我が家は現在、主人と私と小学校5年生の娘、2歳9カ月の女の子の里子の4人で暮らしております。里子がちょうど1歳になった月に我が家へやってきました。それなので、まだ里親歴1年9カ月の新米です。

乳児院で最初に会ったときの里子は、表情も乏しく、色白で小さくて、神経質そうに私と主人を警戒しているような子でした。何度か面会を重ねて、週末には、主人と実子と3人で乳児院に面会に行きました。お弁当を持って行って、乳児院で離乳食と一緒に食べたり、みんなでお風呂に入ったりしながら交流を重ねました。初めて会ったのは、タッチができるようになった頃でしたが、我が家に来る頃から本格的に歩き始めました。歩き始めるようになると、自分自身で移動することが可能になり、いろいろなものに興味を持つようになりました。いたずらにコンセントを引っ張ってみたり、ティッシュを出してみたり、そこらの子どもがやるようないたずらはすべてやりました。そのたびに「だめだよ、だめだよ」と言って本当の娘のように叱ったり、甘えたり、怒ったり、いろいろしてきました。

半年もすると、お客さんが来るとだれよりも早く玄関に行って「ちわ」とか「どうじょ」と言いながら、部屋に案内してくれるようになりました。「いつもいろいろすみません」と私が言うと、隣で「いつもちえん」と言ったり、愛嬌もあって、歌やおしゃべりもとても上手なので、近所の人も私たちもすごく楽しませてもらいました。

今でこそ、娘のような感覚ですけれども、最初からすべてがうまくいっていたわけではありません。最初に里子を預かってみたい、里親になってみたいと言い出したのは私でした。大家族で暮らすことを夢に見ていたし、子どもがたくさんワイワイいる家庭を作りたいという希望がありました。しかし、自分の子どもは1人しか生まれず、その後も授かることがなく、里親をやってみたい、もっといっぱい子どもを育ててみたいという気持ちが盛り上がってしまいました。

今もそうですが、以前保育士として働いていたこともあるので、子どもの扱いには慣れていたし、自分の子どもを一人育てている自信もありました。それで「里親登録しようよ」と主人に相談を持ちかけたところ、ちょっと年が離れている主人なものですから「体力的にも、年齢的にもよそ様の子どもを見る、そんな自信はないよ」と言って反対しました。私の実家の母も、娘を3人育ててきましたが「里子さんを育てるということは、その子の人生を左右することであるし、すごく責任重大なのよ」と言って、やはりいい顔はしませんでした。それでも「やってみなければどうなるかわからないし、実子も里子も同じように育てればいいんだよ」と説得して、養育家庭として登録しました。

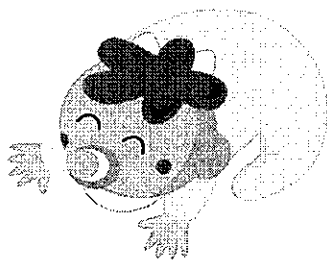
里子が我が家に来て、半年もしないうちに1歳の里子の女の子に主人はメロメロになってしまい、かわいくて、かわいくてしょうがないという感じでした。実家の母にもとても懐いて、実家の母が遊びに来ていると里子も母から離れないぐらい仲がよくなりました。私が養育家庭になることを一番望んでいたのに、また一番お世話をしているのに、思ったイメージどおりにいかなくて、最初の頃はいらいらしていたのかなと、今振り返るとそんなように思います。

当時、小学校3年生の実子は、妹が欲しくてずっとサンタさんに「妹が欲しい、妹が欲しい」と言っていたので、里子が来てくれたときには、オムツ替え、着替え、食事の介助などよく面倒をみてくれました。実子が小学校の先生に「今度うちに、妹が来る」と話しました。そうしたら学校の先生に「妹は来るじゃなくて生まれるでしょう。あなたの言葉の使い方は間違っているわよ」と言われました。こういう理由で妹が来るのだということを説明して、今では先生もよく理解してくれています。学校のお友達の中には「里子って何?」、「さとこっていう子ども?」なんて言う子とか、赤ちゃんポスト（こうのとりのゆりかご）が話題になった時期だったので「この子は親に捨てられた子なのでしょう」なんていう言い方をする子もいて、心ない言葉に傷つきました。それでも実子は友達の理解を得ようと一生懸命に頑張ってくれました。実子自身も「血がつながっていないと妹って言えないのかな?」などと悩んだ時期もあったようですが、家族でたくさん話し合っ、「こんなにかわいいのだから、一緒に暮らしているのだから、血がつながってなくたって妹だよ」という結論に達しました。そんな実子のいろいろな働きかけもあって、今では小学校に遊びにいくと、友達の輪の中にまぎれて、帽子をかぶらされたり、荷物を持たされて一緒に帰ってきたりと実子の友達みんなが里子をかわいがしてくれます。

近所でも、同じ年代のお友達がいるので、野球をやったり、サッカーをやったりして遊んでいます。近所のお母さんたちも、突然来た赤ちゃんですので、事情をお話しして、お古をいただいたりとか、お菓子を分けてもらったりとか、協力してもらっています。近所の方はお年寄りが多いのですが、お年寄りの方もとてもかわいがってくれます。外にいれば必ず声をかけてくれたり、私たちの手伝いをしてくれたり、下町の昔ながらのお互いさまというような環境で里子を育てています。

そうした近所の方の応援があると、すごく元気が出ます。この先、真実告知や里子が18歳になって巣立っていくときなど、どんなふうになるか本当にわからないし、この先のことを考えると不安で仕方がないこともあります。実の親に育ててもらえなかったことが不幸なのか、周りの人にかわいがってもらって、応援してもらって、楽しく育っていくことが幸せなのか、里子自身が小さくてどのように感じているか今はまだわかりません。しかし、大きくなったときに自分の境遇をしっかりと受け入れて、幸せだったと思ってもらえるように育てていきたいと思っています。

養育家庭のことをもっと幅広く知っていただいて、応援していただけるような世の中になったらいいなと思っています。



19 一歩踏み出そう

【里母】

3年前に区報で短期里親募集というお知らせを見て、区役所に問い合わせたところ、体験発表会への参加を勧められ、初めて参加しました。自分より人生の先輩たちばかりで、私の居場所ではないような雰囲気に戻りたいというのが正直な気持ちでした。その体験談が衝撃的な話という訳ではなかったのですが、思春期ならではの子育ての大変なお話で、丁度自分の子供が高一と中一という思春期の真ただ中で、息子たちの子育てに向かい合うだけでいっぱいの時でした。里親などは絶対無理、できない、考えられないと思っていました。第一、周りの大人たちの無責任な行動で心に穴があいてしまった子供たちにどう対応したらよいかという自信もありませんでした。でも、そういう子供たちがいるという現実はやはりすごくショックでした。しかし、家に帰って日が経つにつれ、居場所のない傷ついた子供たちが現実にいると思うと、何か自分にできることがあればと考えたりしました。

次男を生んだ後、第三子を妊娠したのですが、病気が判り、子供を諦めると同時に子供を産めない体になってしまったので、何かの縁で神様が授かるようにチャンスを与えてくれたのかな、里親をやってみようかなという気持ちが70%ぐらいかたまってきました。主人に思いを話したところ、子供は好きだけれども簡単に受け入れられることではないし、やっと息子たちが成長して手がかからなくなってきた時期にまた一から子育てを始めるのは、私に負担がかかるとあまり賛成ではありませんでした。私の中でもいろいろ悩んでいたときに、友人が、困っている人に手を差し伸べるのは、大変で勇気が要ることだけれど、自分にできる限りのことを全力でやってあげればいいんじゃないと言ってくれました。自分の中で里親だからこうでなければいけないという観念がずっと楽になりました。それまでの肩の力が抜け、その言葉に背中を押されて、申し込みをしました。そんな気持ちを主人も家族も理解してくれて、すべてのことが前向きに動き出しました。

すぐに子供が来ると簡単に考えていたのですが、なかなか来ませんでした。待ちに待った連絡が4ヵ月後に入り、1歳3カ月の女の子の紹介を受けました。主人もその頃には楽しみにしていて、女の子ということでもとても乗り気でした。女の子に会いに行く日は熟睡できないほど嬉しく思う一方で、産まれてたった1ヵ月で親元を離れて乳児院で生活することになったその子の状況、過程がとてもショックでした。親との面会もなく、施設で過ごさなければいけない子が目の前にいることに自分の気持ちが追いつかず、消化するのに時間がかかりました。

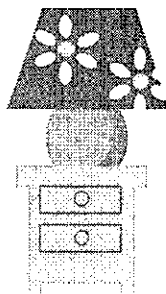
初めて会ったときの娘はとびっきりかわいいワンピースを着せてもらって、この先自分がどうなっていくか全く理解できておらず、にっこり笑って、名前を呼びかけると私の指をぎゅゅと握ってくれました。そのときの感覚は今でも覚えていて、握ってくれたことがいろいろなことへの不安とか、今まで自分の中で消化し切れない、追いつかない気持ちが一気に吹っ飛んで、ただただ早く一緒に生活したいという思いが強くなりました。娘は、自分だけに来る大人が今までいないので、私たちが来ることは楽しみでもどうやって関わっていいか解らなくて、遠巻きに様子を見たり、直接相手をされると大泣きしてしまったりが二、三回ありました。保育士

さんたちが積極的に二人になる時間をいっぱいつくってくださり、結構スムーズに慣れてくれて、1カ月ぐらいで自宅に連れてくることができました。

新しい家族としての生活が始まり今年で丁度2年が経ちました。今は反発の3歳児で、「いやだもーん」とか、全く言うことを聞いてくれないのですが、やっぱりすごくかわいいし、愛おしく、かけがえのない存在です。一つの括りとしては、養育家庭とか、里親、里子という文字はあるのですが、実際の生活の中では自分の本当の子供だし、実親さんには申し訳ないですが私の娘だと思っています。そう思いながら、お父さん、お母さんをやらせてもらっているのですが、実際のところは貰うパワーのほうが大きくて、彼女からのエネルギーでここまでこれているという感じで、巡り逢えて本当によかったと思っています。

でも現実、ただかわいいとか、愛おしいというだけで子育てはできなくて、それなりに問題もあります。一つは言葉で、うちに来たときは、「ああ、ああ」とか、ちょうだいの手を叩くことしかなくて、意思の疎通がうまくできませんでした。何とかお互い言葉でのコミュニケーションが図れるようにと働きかけをし、一言、二言は出るようになって、お互いに思いが通じ合うということは難しく、何もないところでよく転ぶし、落ち着いていないし、何か遅れがあるのかと一度は真剣に思ったこともありました。公園に遊びに行っても子供同士だとどうまういなくて、欠落している部分がたくさんありました。父の具合が悪く介護ということもありましたが、同じ年齢の子どもたちからの刺激を受けるその中で成長させていきたいと保育園に入れました。保育園に入れたのは正解で、パパ、ママぐらいしか今年の初めには話せなかったのが、今では歌も歌えるし、口にガムテープを張りたいぐらいいろいろなことを話せるようになりました。子どもは、いろいろな刺激で伸びていくんだと、教えられることがいっぱいありました。

2年間娘と生活して、彼女のあるがままの姿を全部受け入れて、こちらが少し待つてあげて、安心した環境を作ってあげることができれば、それで良いのかなと思っています。日々娘と生活する時間を楽しんでいます。3年前に体験発表を聞いたとき、私は自信がなく、責任が重いように感じて、なかなか一步を踏み出せないで悩みました。でも新しい家族、娘がいてくれたことでいろいろ広がった部分があり、一步を踏み出してよかったと心から感じています。私たちなりの新しい家族の形態、できることを彼女に精一杯して全力でぶつかって、彼女が安心して過ごせる場所を作ってあげることができたら良いと思っています。私の発表で一步踏み出せる勇気を持っていただけたら幸いです。



20 一緒に住んで、ご飯を食べて・・・

【里母】

うちの家族は私たち夫婦と、5歳で里子のS君、実子の小3の双子の男の子の5人です。私以外全部男という本当ににぎやかな家です。S君は来て3年位になります。

里親になろうと思ったきっかけは、今から5～6年ぐらい前、丁度うちの子供が保育園年中の頃でした。小さいときは本当に大変で苦しい思いをして子育てをしましたが、手がかかなくなってきた、かわいくて仕方なくなると、世の中の子供の虐待というニュースがいたたまれず、子供にかかわるようなことをしたいなと思っていました。

私の仕事はフルタイムで、毎日朝7時半に出て帰りは7時ぐらいという生活です。土日はお休みですが何だかんだと忙しくて、何かしたいけど改めて時間をとるといことはとても難しいと思っていました。里親制度をテレビ等で見て知っていたので、お兄ちゃんたちにできていること、一緒に住んで、ご飯を食べて、保育園の送り迎えして、お風呂入って、寝るときに話をして、土日は公園で遊ぶ・・・そういうことならできるんじゃないか、一緒に住むのはできるだろうと里親になりました。

初めてS君と交流を始めたのは2歳のお誕生日の頃でした。児童相談所の方から、発達が遅れているという話があり、当時S君は歩き始めたばかりでよたよたして、ほとんどお話ししないような感じでした。乳児院に会いに行ったのですが、第一印象はとにかくボーッとしたおとなしい感じで、歩いたりもまだ余りできなかったのも、周りの子たちは遊んでいるのですが、ぼてっと座ってミニカーをいじっているような感じの子でした。人見知りするでもなく、かといってすごく人なつっこいという感じもなく、正直、この子があなたの里子になるかもしれないと言われないとすごく印象が薄い感じでした。ただ、そのときにお兄ちゃんたちはそのS君を見て、「すごいかわいい」「もうほんとにかわいい」と言い、実子の存在というのはありがたかったです。

S君がうちに来て交流を始めても、そのおとなしいという印象は全然変わりません。とにかくおとなしかったです。何をされても静かで、おもちゃを出したりとか、公園に遊びに行ったとしても、怖がりもせず、でも喜んでるのかなというのもよくわからないという本当におとなしい子で、こりゃ手がかからない、しめたという感じで、預かって楽かなと気軽に思っていました。

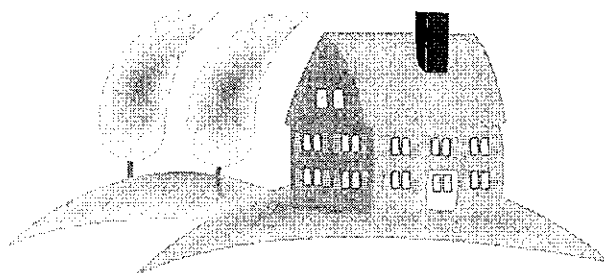
12月末に本格的にうちに来るようになって、それからが大変でした。急に人が変わって別人のようになりました。年頃も2歳ということで、いやいやという反抗期みたいなものもあったのだと思うのですが、何をやっても大泣きで、その態度の変わり方が私をすごく人間不信にさせて、子供なのに何でこんなにも変わるのだろうとパニックでした。家族全員に嫌ならいいのですが、嫌というのが私に対してだけすごく、お父さんにはなついていました。何をしてもパパ、パパで、私が抱っこしてあげると言っても逃げるし、もう腹が立つので無理やり夫から奪い取って抱っこしても、ものすごい勢いで逃げて行き、自分のプライドが傷ついていくのをすごく感じました。夫は私がキーツとなっていることを感じていて、随分フォローもしてく

れるのですが、夫が出かけていないときは、S君と私が2人になるというシチュエーションもあり、そのとき彼はずーっと玄関先で1時間でも2時間でも泣いていました。何とかして部屋に入れたいのですがなかなか出来なくて、とても辛い時期でした。幸い、保育園に預けていたので、先生から「状況がわからない、言葉で理解できないから混乱しているんじゃないかな」とか「お母さんよくやっているよ」と言われて、とても助けになりました。S君の送り迎えは私で、最初すごく辛かったのですが、時間をかけていくことで少しずつ打ち解けていきました。今冷静に思うと、少し言葉も遅いし、歩くのも遅いし、だからこそちゃんとしつけだけはしようと無理やり挨拶をさせたり、ご飯を食べる前にまず手をお膝にのせて等すごく細かい指示をしたので嫌だったのかなと反省しています。借りてきた猫のようだった時期は、彼なりに何とか新しい環境に慣れなきゃいけないと思って静かにしていたのだと今は、S君のことを理解できるようになりました。うちの夫はとにかく何でもやってあげる人なので、それでなついたのかなと思っています。

ドラマ「瞳」で、ご飯を食べたり一緒に寝たりという当たり前の生活が大事と言っていました。普通の生活をして3年ぐらいたって、時間が解決するということはすごく大きいなと思いました。思い切って里親になって良かったと思っています。

他に、S君が来ておふろをすごく怖がったり、声をかけると布団に入って一人で寝るという習慣がついていてびっくりしました。おうちとちょっと違うんだなと感じました。12月末にS君を迎えにいったとき夫が泣きながら帰ってきました。理由を聞くと、彼の荷物は紙袋一つで、中身は、乳児院の先生に買ってもらった本や洋服、クリスマスのプレゼントだけでした。お別れのとき担当の先生が全員集まってくれ泣きながら見送ってくれたので、うちの夫ももらい泣きをして帰ってきたのです。交流の時に着ていたかわいい服は乳児院の服で、先生が気に入られるようにといい服を選んで着せてくれていたようでした。辛いときも、施設の先生たちのためにも頑張らなければ、思いを受けとめなければと思っていました。今でもときどき乳児院には時間を作って行っていますが、皆さんも喜んでくださり、S君のルーツがそういうところによかったなと思っています。

里親をやめようと思ったことも何度かありましたが、最近はほとんどやめたいなと思うこともなくなりました。小さい子がうちにいるのは幸せだな、このまま大きくならないでほしいなとも思いますが、それは叶わないことですので、このまま元気に成長してくれたらと思っています。



21 子どもと出かける楽しみ

【里父】

息子は高校1年生になりました。うちに来て、ちょうど来年の3月で10年になります。私達夫婦に子どもがいなかったの、子どもが欲しいとは思っていたのですが、自分の子どもでなければいけないという事ありませんでした。子どもを預かるというよりも、自分達に子どもができたみたいで非常に嬉しかったです。

色々なことがありました。名前については私たちの名前と本人の名前があり、学校に行く前に聞いたら、「自分にはちゃんとした名前があるんだから、自分の名前でやる」と言うので、事前に校長先生だとか担任の先生にお話をしてご理解いただきました。うちは電話がかかってくると、「はい」としか言いません。相手先の様子で「はい、〇〇です」と子どもの名前を名乗ったり、自分の名前を名乗ったりと使い分けています。当初は、私達のことを「おじちゃん、おばちゃん」と呼んでいたのですが、「お父さん、お母さんと呼んだほうがいいんじゃない？」って言っても、「だって僕には本当のお父さんもお母さんもいるもん」と言われました。「あ、そうか」って、当然のことですがこちらも次の言葉が出ませんでした。妻が「おっとう」と「おっかあ」みたいにしようと言って、小学校4年ぐらいまで続いていたのですが、やっぱり格好が悪いと本人も思い直して、いつの間にか学校では「うちのお父さん、お母さん」とちゃんと言っていますし、うちでは「とうちゃん、かあちゃん」になりました。特に、うちに来てから2~3年ですが、普段はすごく元気で懐いている感じでしたが、何か叱られたりすると、ガツと固まっちゃいます。そうになると、何を言っても動かなくて、ひどい時は4時間位部屋の隅で動かなくなり手がつけられません。もう放っておくしかなくて放っていたんですけど、段々固まっている時間が短くなっていきました。今は、怒られると知らん顔して部屋から出て行きますが、自分で話題を変えて入って来るようになりました。余り気にしなくても何とかなるものだな、というのが実感でした。妻も結構忙しいのですが、PTAの役員やサッカーチームのサポートをしたりして、子どもの色んな事に関わっていくようにしました。私も学校の授業参観には殆ど出ましたし、イベントのスタッフにもなって一生懸命やりました。街でよく若い子に挨拶されるのでびっくりするのですが、よく考えたら子どものクラスメートだったということがありました。幼稚園の運動会では、皆でお遊戯をやっていても1人だけ立ったまま動かず、「どうすればああいうことができるのか」と私達には理解できなくて、「これはまずいな」と随分ショックを受けました。でも5年生の運動会で、私達のすぐ前でもこにこして仲間と踊っている姿を見て、本当に涙が出て止まりませんでした。人に余り褒められたことがないんですが、「里親になってよかった」と感じました。

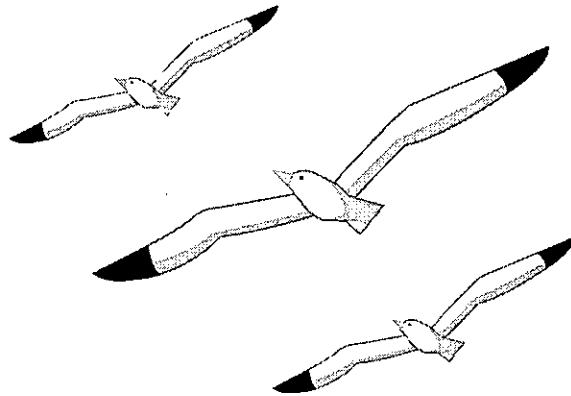
私はアウトドアが好きで、彼が来てからよく2人で出かけるようになりました。夏はキャンプ、山登り、冬はスキー、それ以外は釣りをします。休みの日は殆ど私とどこかへ出かけ、うちの中では妻とべったりしていました。彼が4年生の時に鳳凰三山に登りましたが、雨が降って山が静かになった時、私の先を歩いていた彼が何かを指さして、「とうちゃん！とうちゃん！」と言っています。顔がただごとでないのに熊でも出たかと思えばびっくりして近寄るとそ

こにかモシカがいて、こっちを見ていました。本当に手が届くぐらいのところにいたので、雨で濡れた毛皮の色の生々しさがわかりました。カモシカが立ち去るまでずっと見ていた時の彼の顔がもう最高で、私はそれに味をしめて、それからもあっちこっち連れて行きました。仲間には、「おまえ、子どもをダシにして遊んでいるんだろう」と言われます。まさにそのとおりかなと反省もしているのですが、本人も楽しんでいるからいいかなと思っています。

私達がなぜ里親になったかという、たまたま私達には子どもができなかったので子育てをしたいという気持ちが強かったのと世の中のために何かできることがあったらやりたいという事もありました。実際に里親になって大変なこともありましたが、本当に楽しいことがたくさんありました。彼がかなり難しい性格の子どもだったことは間違いないのですが、彼に起きた問題は常に自分達のことだと思い何とかして解決しよう、どうすればこの子のためになるだろうということを常に考えてやってきたつもりです。解決できないことはこれまではなかったと思います。ただ、私達の育て方が甘いので、妻が上で突き落としても、もう下でちゃんと私が待っているといった安全を確保したうえでチャレンジをさせてきてしまいました。最後のところでは血のつながりがない親である私達にとって、ここで手を放してしまったら本当にいなくなってしまうのではないかと不安が心の中にあるので、つい手が放れていくぎりぎりのところでつかんでしまいます。その辺りが私達の限界だと思っています。

今振り返って考えると、私の人生観は変わったと思います。妻と私の二人暮らしで、自分が何をしたいのかということを中心に考え、その方向に沿って行動し、あんまり人のことを考えたりすることは得意ではありませんでした。しかし、彼がうちに来てからは、まず第一に彼ありきで、そのためには自分はどうすればいいかを考えるようになり、その範囲で自分の欲求を満足させていこうということを考えるようになりました。

今まで感じられなかったいろいろなこと、些細なことにも感動できるようになりましたし、周りの人に感謝できるようにもなりました。この歳まであまり人にありがとうと言うことがなく生きてきたのですが、最近、随分そういったことを感じられるようになりました。子どもに関しては、こちらが真剣になれば絶対に相手には通じると思っていましたが、それで押し通してきて、多分通じたんだらうと思います。解決できないことはないと思います。だから、そういうことでやれば里親は、夫婦2人だけの生活より何倍も楽しい生活ができると思います。



22 最初が肝心

【里父】

実子は22歳の長男をはじめ4人います。そして、里子として迎えたのが、今9歳の男の子と年長、年中の男の子、そして年少の女の子です。

養育家庭になったきっかけは、知人に勧められたのがはじまりです。新規登録研修では、養育家庭として失敗した経験を持つ里父さんの話を聞きました。子どもが、自分にとっていい人なら誰でもいい、自分の都合のいい人のところへどんどんいってしまっただけで里親に懐かないので、一旦子どもを戻したという話でした。私は、「えっ、預かった子どもを戻していいの」と少し驚きました。そのときは、それがどういうことか、深いことはわからなかったのです。しかし、この話を聞いたことが後に養育家庭としてとても参考になっていきました。

児相から1人目の子どもの紹介がありました。事情があって一度、養育家庭から施設に戻された子で、現時点では知能指数は知的障害域に入るとのことでした。「すぐに返事をしなくてもいい。少し考えてくれないか」というお話でした。

正直にお話すると、知的障害という言葉に少々ショックを受けました。養育家庭になり、自分も子どもとの出会いを楽しみにしていたわけですから、その運命的な出会いが知的障害という言葉と、そういう子どもが実際に我が家に入るのかという思いで一瞬迷いが生じました。しかし、もし自分の子だったら、これが知的障害だろうが、何だろうが、考えると考えないということは一切ないと思い、児相の方に、その場で「いいです」と答えました。児相の方は「えっ、ちょっと待ってください」と驚いていましたが、自分の気持ちはもう決めていました。

乳児院には子どもたちも連れてみんなで行きました。なかなかシャイな子で心を開かず、食事もろくにとらずにその日は面会終了になりました。しかし、残った食事がもったいないなと思って、私がきれいに食べたのです。それがちょっとシスターに受けまして、乳児院の職員とも子どもともそれからさらに仲良くなりました。

その子が我が家に来ると、もうかわいくて、抱きしめると「チュッ」としたくなります。仕事から帰れば寝顔を見に部屋をのぞいたりするような状況が続いて、1つ上の三女にはやきもちを焼かれたような気がします。今、4人の子どもを養育していますが、養育家庭のスタートであったこの出会いが大切だったと思います。最初が肝心です。最初が上手くいけば、あとはスムーズです。

次に迎えた3人はきょうだいで、それぞれ別の施設で暮らしていました。まず初めは、年中の子が1歳のときに交流を開始しました。施設にはないあたりまえの雰囲気を楽しませようと、スーパーに買い物に連れて行きましたが、その子にはこれがとても受けました。私はごく自然体でただ「来なよ」という感じでしたが、それがうまくいったようでした。1人目、2人目はそんなに大したことはなかったのですが、ただいたずらのスペシャリストになり、すべての物を引き出しから出すなど、これには辟易しました。次は、年長のお兄ちゃんがやってきました。都合のいい人なら誰でもいいというタイプで、今でも目が離せません。そして一番下の女の子です。この子はしゃべらず、ろくに歩けずということでしたが、そんなことはどうってことな

いなと思いました。最初の知的障害という言葉でショックを受け、実際に子どもを迎え入れて上手く行って、本当に腹が据わりました。しかし、受け入れの時期についての考えが甘かったです。私は夏に忙しい仕事をしています。夏休みになった途端に、疲れが出ました。子どもたちはぎゃーぎゃー騒ぐし、自分もパニックのようになりました。しかし、9月1日には保育園にうまく入りました。

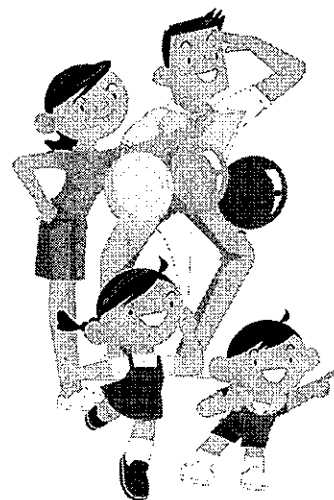
保育園は、実子もみんな同じ保育園でしたから、歴代の園長とも知り合いです。それだけでなく、今まで自治会、PTA、地域活動をしてきたことが非常に役に立っています。PTAをやっていると情報も入り、自分の勉強にもなります。

最初の子が、うちへ来てから一番最初に買ったのが、お祭りのひよつこのお面です。小さいころから踊りが好きで、小学校に入ってから近くのお囃子に入りました。地元は田舎なので、地域のみんが子どもを見ている。ありがたいなと思います。そして、お祭りのお囃子というのは小さい子から90歳ぐらいまで一緒に練習をします。年の違う者が一緒に何かをやるという姿がとてもいいのです。そういう環境を地域の方々とともに大事にしていければ幸せかなと思っております。子どもは本格的に練習をはじめ、人前で踊るようになり、各市の地元のお祭りでどンドン踊り出して、引っ込み思案だったその子にすっかり自信ができました。今は学校の帰り道で、踊りながら帰ってくるということで有名になっています。

また、行政の支援もあります。もちろん、100%ではありませんが、大いに利用していかなければいけません。自分一人で養育することは大変ですが、制度をよく勉強して、有利に使うことも大事だと思います。

人様の子どもの預かるわけですから、当然大変なこともあります。下の3人は熱性けいれんを起こすので、すぐ救急車をに呼ばなければならない時もあり、そんなときは大変です。処方された薬を医師の指示通りに服薬させなくてはなりません。

いま私は、養育家庭といっても特殊な目で見ないでほしいと思っています。子どもに親がないという背景があっても、「それがどうしたの」、「だから何」と思っています。親がいようがいまいが、自分の出生も生い立ちも何もかもが、捉え方によって「人生の糧」になると思っています。里子たちが立派に自立し、かつての自分と同じような境遇の子どもたちを助ける側になれば、里親である私たちの目的を達したかなという思いでいます。今より、18歳過ぎてからが勝負だと思っています。



23 ママと呼んでくれた日から

【里母】

私は去年のちょうど今ごろから5歳の女の子を預かって娘と二人でお世話をしています。

里親制度に興味をもったきっかけは、いくつかの要因が重なっています。まず一つ目は、私が幼い頃、洋裁上手な母が着られなくなった洋服をふろしきに包んで母親の背よりも高い柵のある施設に私の手をひいて何度も行ったことがありました。小さな子どもたちが十数人できて、こちらに興味津々に見ていました。そのことが私の心の中に焼き付いています。小学校5年生の頃は、学校に“施設の子”と呼ばれている集団がいました。お互いに積極的に交わろうとはしなかったのですが、ある日、施設の中に誘われて行ったことがあり、理科室のような大きな机の上で私のために一生懸命、字を書いてくれました。翌日、日記に「あの子はすごい！」と書いて先生に提出した記憶があり、その頃には私の心の中の柵はなくなっていました。また、アメリカに住んでいたことがあり、そこには世界各国からいろんな子ども達が養子縁組で養育されており、そのような家庭をいっぱい見てきました。最後に、娘が成人し、どちらかというひざが寂しくなったというのが一番の理由なのかもしれません。

児童相談所から5歳の子を紹介され、最初この制度に対し不安を持っていた娘も会ってみると「かわいい。小さい。」と抱き上げて大喜びしていました。私は、フルタイムで仕事をしており、とても忙しい時だったのですが、会社の方も私が育てる環境というのを用意しようという体制になってくれました。また、児童相談所の方もすぐに保育園を用意して下さり、私が働きながら子どもを育てる環境をつくって下さいました。ですので、すぐ始動・開始することは可能でした。

来たばかりの頃は私のことを何と呼べばよいか非常に迷っていたみたいですが、娘が私のことをママと呼ぶので、その子も数時間でママと呼び出しました。その上まだまだ柔軟で「生活しているから仲間だよ」と同じ姓を名乗るようになり、これには我々も本当にびっくりしたところです。

受託して2ヶ月もすると少々しんどいかなと思う時期もありました。もう娘も成人していたので、その子が来てからは朝の時間がとくに慌しかったです。しかし、その生活に慣れてしまうと後は本当に楽しいばかりでした。

私達がこの子を預かる約束事として、実母さんと毎月面会させることが前提にありました。でも、育てていくとだんだん会わせたくない気持ちが出てくるのが本音です。受託して少したったころ、その子が言ったんです。「お母さんと呼んでここ(里親宅)で暮らせないか。お母さんと別れたときは小さかったから手伝うことができなかった。でももう大きくなった。私のお母さんも大事だし、新しいママ(里母)も兄弟(里親の実子)も大事なんだ。」戸惑いながら、その子の気持ちを受け取り、児童相談所に相談し、今はここで一緒に暮すことはできないことを伝えました。彼女は、「残念だな」と言ったきり、それ以来私に交渉しなくなりました。普通の子なら泣くであろうに、やっぱりよっぽど悲しいから言葉にできないのかなと思ってしまいました。

その時から私は、ぼかぼかの太陽に徹しようと思いました。それからもう一つ、私も実母さんもこの子につながる両腕のような存在でいようと思いました。

私自身が悩んだことは、里親の価値観で長く生活をする実母のもとで苦勞するのではないかということでした。しかし、保育園の先生に相談したところ、「いろんな人間がいろんな価値観で子どもに接しているんだから、その中で子どもが取捨選択していくのだから大きく間違っていなければそれは構わない」と言ってくださりほっとしました。

うちにきた女の子は非常に賢くて優しい子ですが、時々大きな傷が残っていることを感じます。保育園でお友達に蹴られたりしても言葉に出して抵抗できません。それどころか記憶の塗り直し行為で良い思いでにすり変えてしまいます。また、自傷行為もあり、自分で無理やり鼻血を出してしまいます。私は、まずは信頼関係をつくろう、愛されていることをちゃんと知ってもらおうと余り厳しく言いませんでした。今では、自分から嫌なことは嫌と言えるようになり、自傷行為もほとんどありません。

時々彼女のために、何をやってあげれば、いつか私から離れて、日本中どこにいたとしても、どういう環境でも食べていけるようになるのか、私が母から教育を受けたように私も子どもに還元していかなければならないというふうに思っています。しっかりとした教育を与え、しっかりとした肉体を与え、自分の気持ちをコントロールできることを態度で教えてあげたいと思っています。

この子を育てながら、本当に思うのは、育てているというより、どちらかというとも娘もこの子から育てられているというのが本当のところだと思います。彼女から与えられたものは計り知れません。

養育家庭として、子どもを預かり大人だけの生活から一遍しました。バランスのとれた食生活をおくるようになり、忙しく仕事をしていると見落としがちな季節を、遊びながら感じ、年をとるのもその子の成長を感じる喜びにかわります。また、実子を育てていたときには気がつかなかった近所の人のおしかりの意味や励ましの言葉のありがたさ、子育てをもう一回させていただくことで理解させてもらいました。このようなチャンスを与えていただいたので、この子を立派に育てあげ、この子がまた社会に還元していけるような良い循環を作り上げることができたらいいなというふうに思っています。たくさんの人に参加していただき幸せな家族をいっぱい作っていただきたいと思います。



24 夫婦で仕事・夫婦で子育て

【里父】

うちは共働きで、私は小学校の教員、妻は幼稚園の教員をしています。

私たちは 学生のときから実習などで児童養護施設へ行くこともあり、施設との交流の中で、養育家庭という制度があることは随分前から知っていました。自分たちがそういうことをやることは、考えたこともありませんでしたが、なかなか実子を授からなかったこともあり、妻と話しあいました。では里親をやろうじゃないかという話になったのが4年半くらい前で、それから児童相談所に相談に行きました。

その年の8月に養育家庭の研修を受けてから、すぐ今の上の男の子の紹介を受けまして、8月から12月まで、乳児院で毎週日曜日に交流をしていました。その途中で一回、うちへ試しのお泊まりをただけで、次にはもう、長期外泊という形で受託に踏み切りました。それから、もうかれこれ4年で、今はもう、小学校1年生になります。

2番目の子どもも男の子で、もうじき3歳になります。その子とはことしの4月の終わりから交流をしまして、夏休みの中ほど、8月の10日過ぎに長期外泊に入って、やはりそのまま委託という形になりました。今、うちに来て3カ月ちょっとになるところです。

下の子は、乳児院で交流をしていたときはとてもおとなしい子だったんです。しかし、うちに来てみたら、後追いかもなかなかすごくて、「パパ、パパ、ママ、ママ、これなに、これなに」とか、気に入らないことがあるとはっきり「いやだ!」、それがかなわないと、大きい声で「うわっ」と泣いたりします。おとなしい子だと思っていましたが、そうじゃないのかなと思いつながりながら、3カ月がちょっと経ち、少し落ちついてきたかなというところですよ。

やはり2人いると、今まで1人でいた上のお兄ちゃんのほうにも変化があって、今までは自分のほうに100%愛情が注がれていたわけですけども、そういうわけではなくなったことで、すねたり、わがママを言うようになったり、寝るときなんか妙に甘えてピタッとくっついてみたりということがあります。

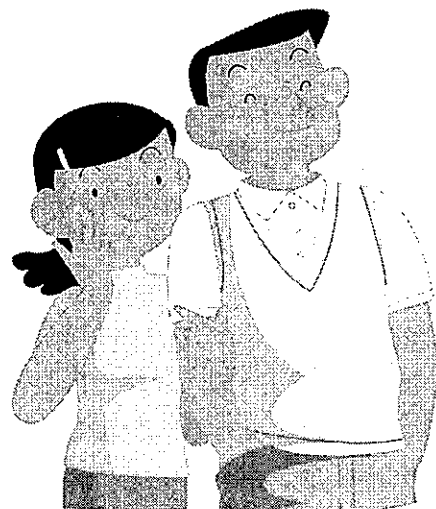
うちの場合、夫婦とも働いているので、お預かりするには子どもを保育園にいれなければだめでした。児相のほうからも区の保育課に連絡をしていただき、まず認証保育所に行きまして、そこから区立の保育園に何とか通わせていただいております。2人を預かって日々奮闘しているというところかなと思います。

共働きですと、どうしても夫婦で協力していかなくてはいけないことがたくさんあります。お互いに同じような仕事しているものですから、結構同じような時期に忙しいんですね。土日に発表会やらの仕事が入ったり、私のほうは試合の引率とかが入ることもあります。お互いにそういうところはスケジュールのやりくりをしています。また、2人の子どもの送り迎えや、そのほかの食事づくりや洗濯、そういう家事についてもお互いにできるほうで分担していくということがどうしても必要です。その分、子どもたちをお休みの日には、あまりいろんなところに引き回さず、家の近くでゆっくり過ごさせるようにしています。近所の公園に行ったり、図書館に行ったり、一緒に買い物に行って、ああだね、こうだねと話しあったり、そういう生

活ができるように心がけています。私たちにとっては、二人とも宝物のような存在でいてくれるかなと思っています。

自分たちも子どもに関する仕事をしているということもありまして、2人の子どもを育てることで、学ぶことがたくさんあると思いました。何年か子どもと過ごしてみて、パパと呼んでくれることや、一緒に遊ぼう、遊ぼうとすごく慕ってくれることが、こんなにうれしいものなのかというのが初めてわかりましたし、また、私も大人げないのですが、子どもが言うことにむかっときたりすることがしょっちゅうあります。そのときにどういうふうに関係をつけていったらいいか考えることがあります。妻のほうはさすが本職で、小さい子を相手にしているのですごく上手だったりするんですね。そういうところでお互い夫婦での話し合いも密にするようになりました。

2人とも、長期の委託ということでお預かりしていますが、今、少し気になっていることは思春期がどう出てくるかは全く分からないということです。しかし、それは多分、実子で育てていた場合でもそうだと思いますし、少し気楽な気持ちでいたほうがむしろいいのかなと思っています。里親を始めてから4年しかたっていませんが、やはり施設で育つ子どもと家庭で育つ子どもでは、随分違いが出てくることを目の前で見えてきました。育てている2人の子どもたちにも、精神的な強さをつけてあげられる里親でありたいなと思っています。それにやはり、健康と体力が一番だと思うので、それを失わないようにしっかりやっていきたいと思っています。2人の子どもたちにはいつも支えられているので、ぜひ皆さんも機会があったら養育家庭になっていただければと思います。



25 一緒に幸せになろうね！

【里母】

まず私どもが里親になったきっかけですが、私どもの住んでいるマンションに未婚で出産した17歳の女の子がおりまして、産んだ当時は母性があったのですが、だんだんそれが消えてしまいました。その段階でほとんど面倒をみなくなっていたので、週の半分くらい我が家であかちゃんの面倒をみていたんです。その時にちょうどテレビで里親さんの物語がありまして、見ているうちに私でも里親になれるのかなと思ひまして、児童相談所に電話をいたしました。

養育家庭を始めたいことを中学生の息子に話したところ「いいんじゃない」と了承を得ることができまして、それじゃということでそのまま養育家庭になりました。養育家庭になって1ヶ月くらいしたころに、小学1年生の男の子を短期で預かるお話をいただきました。母子家庭のお子さんで、お母さんが怪我で入院するとのことでした。お預かりしてみるとなかなか大変なところも多いお子さんでしたが、お返しするときは本当に寂しい思いでいっぱいでした。

それから1年後に、その子のお母さんから「お父さん、お母さん元気かな、お兄ちゃんは野球をしているかな」とたまに話しているというメールをいただきました。たくさん怒っていたのにそんなふうに言ってくれているんだ、うれしいな、ありがたいな、また里親になってよかったなと思ひました。

その後、しばらくして現在預かっている子どものお話をいただきました。その子は本当に人見知りが激しくて、片時も乳児院の保母さんとはなれることがなく、言葉も発しないような子どもでした。徐々に面会をしていく中、今度は私に馴れてくると、もうべったりでずっと抱っこで下ろさせてくれません。そんな状態でしばらく施設に通いました。そして交流を重ねて長期外泊という時期を迎えました。私も実子を一人育てていますが、うちの子（里子）は産まれてまもなくから施設でそだっており、一般家庭を知りません。家庭では、手の届くところに色々なものがあるので、スイッチの入った炊飯器に手をかざそうとしたり、勝手にコンロの火を小さくしたり大きくしたり、包丁を使っているのを真似て自分も使ってみたり、びっくりするようなことがたくさんありました。今までは危ない経験をしたことがなかったので全てに手をだそうとするのです。ですので、一つずつ「これは熱いのよ、これは痛いよ」と説明していきましたが、まだ興味の方が勝つということで熱いながらも手をだしたりしていました。私の中では2歳7ヶ月だったら言うて分かるだろうという感覚があったのですが、でも彼にとってはそれが産まれてはじめての体験でした。その当時は赤ちゃん用のストッパーをつけたりしていましたが、知恵は2歳7ヶ月で、そのストッパーをきれいに外して中身をだし、またきれいにとめているんです。たまに私が止め忘れると「お母さん、忘れてるよ」と指摘をしてくれるようになりました。

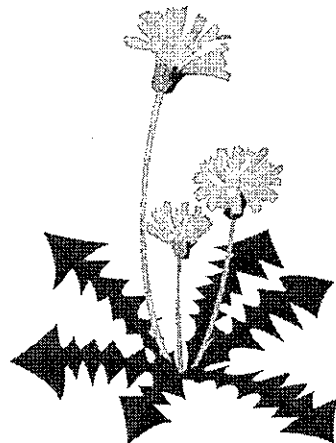
また、本当に驚いたのが、うちの子は人にはそれぞれお家があることを知りませんでした。施設の中で職員の方はみなさんどこかに出かけて帰ってくるのです。自分はずっとそこにいますからそういう感覚しかなかったのです。ですので、私のお友達の家に行かせていただいて「ここがこの人のお家なのよ」ということを教えていきました。そのときに感じたのは、施設

で育った子どもたちは、何もじぶんは悪くないのにそういう環境で、そのような感覚で育っていく。そのまま大きくなった時に少しずつずれていくというのは仕方がないのだろう。でもそれは彼らの責任ではないということを痛感いたしました。

そのようにしながら彼は知らないものを少しずつ吸収し、家にきてもうすぐ1年8ヶ月。やっと1歳8ヶ月くらいの社会性が身についてきたのかなという思いです。

実子に関しては、やはり14年間、一人っ子でそだってきましたので、11歳離れていてもやきもちがあります。例えば下の子に洋服を買ってくると「〇〇だけ2枚も買ってもらって」とか、14、15歳の子どもが言うことかなと思うようなやきもちがあったりします。反抗期なのでストレートには出さないのですが、ちらちらとだしています。私どももとりあえず下の子に2枚買ったなら、上の子にも1枚買ってくるというような方法でやっております。でも、だんだん、上の子の中にも弟がいる感覚が芽生えてきているなという風にとらえてきています。今でも毎日羽交い締めにして、弟を泣かせて鍛えておりますけども、兄弟として、ちょっとやきもちをやきながらも、2人とも成長しているように感じています。またおじいちゃん、おばあちゃんに関しましても、上の子はもう中学生で話してしてくれませんが、突然やってきた小さい孫に「おじいちゃん」「おばあちゃん」と来られて本当に可愛いという感じです。

これから先もこの子と一緒に幸せに暮らしたいと思っておりますが、幸せはつくってあげるべきものではないですし、また一人だけで作れるものでもありません。施設から子どもを引き取ってくるときに担当した保母さんが子どもに「幸せになってね」と言ったのですが、私も主人も何も答えられませんでした。本当にわたしたちのところに来てこの子は幸せなのかな、と思ったのです。その時、私は幸せにしてあげるよ、というのではなくて一緒に幸せになろうね、だから子どもと「一緒にがんばろうね」というふうに保母さんには答えました。忘れてしまいがちなのですが、たまに思い出して、一緒に幸せになろうね。お兄ちゃんと4人で幸せになろうね、という形でこれからもやっていきたいと思っております。



26 離れていても幸せに

【里母】

今日は、Y（元里子）と一緒にきてくれました。とても勇気のいることなので、私は、その勇気をとても嬉しく思っているのですが、Yは初めてこういう場に出てきて、今カチカチの状態ですので、Yには最後にまとめをしてもらおうと思います。

まず、私どもの家庭は、私と夫、Y、10歳になる養子縁組の男の子、それからこちらも里子でもう（養育家庭）解除になっておりますが、勉強が好きで、栄養士になりたいという目的を持って学校に通っている19歳の女の子。あと短期で、13歳のA子という女の子を預かっているそんな家庭です。

私どもが里親になったのは、制度に何かしらの縁のようなものを感じたところがあったのかもしれません。実子を1人産んだ後、2人目の子供を望んだのですが、なかなか授かりませんでした。そんな時にこの制度を知ったことは、どこか神様の縁のようなものがあったのではないかと思います。無理をして2人目の子どもを望むよりも、なにか縁にひかれるところがあったのかな、と思います。また、動機という面で考えると私の母は非常に人が好きな人で、田舎の実家にはいつもたくさんの人関わってにぎやかでした。そんなところで生まれ育ったので、私も人と触れ合うことが大好きというのが基本になったのだと思います。そういったことでこの制度に心が動いたところがあるのかなと思っています。

Yとは2歳の終わりに会いまして、幼稚園の間ずっと一緒に生活をしました。その間、この子を里子として預かったというよりも、いつの間にか、毎日の生活の中で、実子と全く区別がない生活をしていました。今思うと、本当に知らないうちにそうなっていたんですね。

そうして、Yが幼稚園卒業のとき、実の親御さんの環境が整いまして、親元に戻るようになりました。戻った後、この子を手放した後に、私は本当に多くのことを学んだと思います。寂しかったです。この子がこんなに私の中で大きな存在になっていたのかと、本当に驚くほど私はこの子を愛していた、2歳半、3歳、4歳、5歳、6歳の約4年間ですね。この生活で私の一部になっていたことを痛いほど知りました。そんなときに、私はあの子が暮らしている場所で幸せでいてほしいと心から願いました。その願いの中で、私はいろんなことを学んだように思います。その時には、そういったことがうまく説明できなかったのですが、私の大好きな本にとてもうまくその気持ちを説明しているものがありました。この本ご存知ですか。【いのちはつながっている 著くさばかずとし】沖縄ではお盆とかに家族がみんなお墓の前に集って、楽しくおしゃべりをする習慣があるのですが、自分の上にはご先祖様のたくさんの命がつながって、自分が生まれたということが書いてある本です。君の上にはお父さん、お母さんがいて、その上にはまたお父さんお母さんがいて全部で8人。1、2、3、4代前では100人はいるかな、いやその前にはもっともつながついているよ、こんなにつながつて、君の命がこの世に生まれてきたんだよ、というお話なんですね。こう考えると、やっぱりどこにいても、誰とでもみんな1つにつながっているのかなと。だからそんな気持ちでこの子を愛したように、この子が遠くにいても元気でいてねと空を見上げるとつながるんじゃないかと。この子と生活した

ことで私は血を超えた愛情のようなものを自分の中で確認でき、それが私の財産になりました。とても大きな財産です。

残念なことですがその後、Yは実親との生活が困難になり、もう一度、私たちはこの子と出会うこととなります。そのときにYは東京都を離れていまして、ほかの県から里子としてYを委託するというのは、非常に行政的に難しいものがありました。ですが、そこをあえて子どもの望みや、幸せや、安定を考えて行政の方は踏み切ってくださいました。本当にありがたいことだと思っています。ですが、その当時は、なかなか制度が追いつかず、やはり医療受診券のことや、子どもの保険（自賠責）などのことでは、本当に不自由なことがたくさんありました。今はこういったことがどんどん変わり便利になってきました。

また、先ほど所長さんが「この地域には4つの学校があるから最低4つは養育家庭が欲しい」というお話をしていたんですけれども、私もそのとおりだなと思いました。今、13歳のA子ちゃんを短期でお預かりしています。もともと期間の限られた委託の予定だったのですが、お子さんの家庭の事情で少し長くなってしまいそうということで、私はそのお嬢さんをそれ以上長く引き受けることができません。というのも、10年間、家で暮らしていた子どもが、結婚をして出産をすることになり、出産前後にうちに来て赤ちゃんの育て方をママに教わりたいという話を以前からしていました。そんな時に「短期で」とA子ちゃんのお話しがきたのです。お勉強をしなければいけない時期のお子さんですので、新生児がいる環境では落ち着かないということで児童相談所の方も親御さんのところに戻れないということがわかってから、いろいろ里親さんを探してくださったと聞きました。でも、結果的には施設のほうに行くことになりました。施設も職員の方たちが本当に一生懸命にやってくださるし、決して悪いところではないと十分わかってはいるのですが、長い目で見ると、できればやっぱり普通に家庭の中で暮らしてくれたらどんなにいいかなと考えます。

私が台所にいると、「お手伝いすることありますか。」とそばに来てくれるA子ちゃんを見ると胸が痛くなってしまいうんですけれども、もしもここでこの地域、彼女が通える範囲内に里親さんがいたならば、彼女はこの土地を離れて違う区に行くことはないと思います。

子どもにとっては、とにかく親元で暮らすのが一番です。親元にかなうものはないと思っています。ですが、それができないときには、できれば家庭、またお父さん、お母さんと呼べるような家庭に送り出せたら、どんなに私の心は今と違うだろうと思っています。

今日、Yと一緒に来てくれたのも、そういったA子ちゃんのことを娘の心を動かしました。できることなら、この制度に少しでも理解をしていただいて、里子が暮らしやすい地域、それから、できれば仲間になっていただく方が1人でも2人でもふえていくことで、子どもたちの生活環境がどんどん変わっていくこととなります。

人一人の人生が変わるってすごいことだと思います。そのお手伝いができる里親制度というのは私たち里親にとって、とてもすてきな制度だと思います。産んでもいない子どもたちに「お母さん」と呼ばれた瞬間に、私の心はお母さんになるんですね。お母さんと呼ぶ子どもの声が私自身を成長させてくれるなというのをすごく感じています。離れていても元気がしらとか幸せでいてほしいと願える人、心から思う人がたくさんふえている、というこの現実、これからの私の人生をも豊かにすると確信をしています。

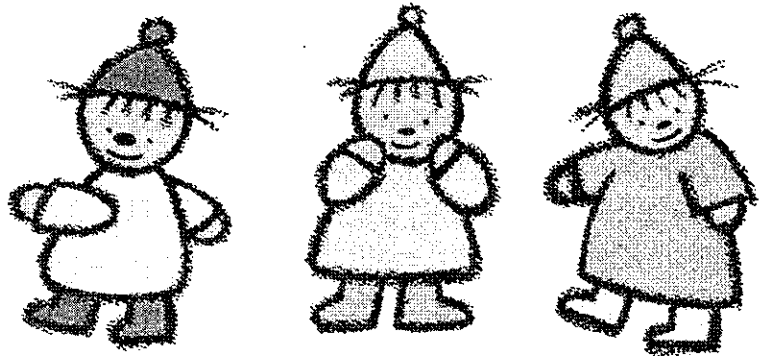
短期や、フレンドホームなど、ショートのリ親でも、きっとお互いに学ぶものが多いという

のは実感しているのでお勧めです。ちょっとでもいいから2、3日預かって、親戚の子どもが来た、みたいところから入って、自分のペースや無理のない形で広がっていけばいいと思っています。今日は、A子ちゃん一人のことを言いましたけれども、東京都内にたくさん養育家庭があったら、また人生が少し違うだろうな、という子どもさんがたくさんいると思いますので、ぜひお仲間になってください。また里親の仲間は、人生をともにする同志みたいなところがあり、私はたくさん出会うことができました。

では、里子の立場からYちゃんが、自分がここに来て一番伝えたいと思うことをちょっと書いてきましたので替わります。

【元里子 Yさん】

私は、里親家庭で生活してきましたが、家庭の温かさを知ることはとても重要なことだと思うので、里親がふえてほしいと感じています。家庭を知らずに社会に出て子どもを持ち、親の立場になったとき、子どもをどう愛しているのかわからず困惑してしまうこともあると思います。そういう子どもが大人になって、子どもを持ったとき、子どもをまた手放してしまうというケースが実際にあります。1人でも多くの子どもたちが本物の愛を知るためにも、里親家庭がふえ、そしてこの日本という社会で特別の家庭と見られることがなくなってほしいと感じています。



平成20年度 養育家庭体験発表会 参加者数

開催日	開催場所	講演会 講師名	担当児童 相談所	参加人数				合計
				養育家庭・ フロントホーム	区市町村	民生・ 児童委員	一般・ その他	
6月3日	羽村市役所会議室		立川	10	5	14	15	44
8月26日	文京シビックセンター(南北線春日駅、丸の内線後楽園駅)		センター	0	22	15	10	47
9月8日	昭島市児童センターぱれっと2階集会所(JR青梅線昭島駅)		立川	7	3	4	6	20
9月20日	狛江市中央公民館(小田急線狛江駅)		世田谷	1	5	14	6	26
9月25日	江東区東陽区民館(東西線木場駅)		墨田	5	7	0	14	26
9月25日	多摩市立健康センター(京王線聖蹟桜ヶ丘駅)		多摩	2	2	0	34	38
10月2日	東大和市役所会議棟2階(西武拝島線東大和市駅)		小平	14	3	0	6	23
10月3日	町田市市民フォーラムホール(JR横浜線・小田急線町田駅)	村尾康弘	八王子	6	14	41	87	148
10月3日	国分寺Lホール(JR中央線国分寺駅)		小平	5	6	0	9	20
10月8日	武蔵村山市役所4階中部地区会館401大集会室(西武拝島線東大和市駅)		小平	8	4	6	0	18
10月9日	赤羽文化センター(JR京浜東北線・埼京線・宇都宮線・高崎線赤羽駅)		北	0	1	0	20	21
10月10日	台東区生涯学習センター(日比谷線入谷駅、つくばエクスプレス浅草駅)		センター	0	6	21	42	69
10月10日	立川市女性総合センター・アイム5階第3学習室(JR中央線立川駅、多摩都市モノレール立川北駅)		立川	4	4	6	14	28
10月10日	足立区子ども家庭支援センター(千代田線綾瀬駅)		足立	4	8	8	9	29
10月15日	千代田区富士見出張所区民館(JR総武線飯田橋駅)		センター	0	5	16	6	27
10月16日	日野市役所5階505会議室(JR中央線日野駅)	宮島 清	八王子	7	9	7	37	60
10月21日	東久留米市役所1階市民プラザ(西武池袋線東久留米駅)		小平	9	4	12	16	41
10月23日	西東京市住吉会館ルピナス(西武池袋線保谷駅)		小平	9	5	9	8	31
10月25日	清瀬市児童センター会議室(西武池袋線清瀬駅)	宮島 清	小平	7	4	0	14	25
10月25日	稲城市地域振興プラザ4階(京王線稲城駅)		多摩	2	4	9	14	29
10月28日	東村山市役所市民センター(西武新宿線久米川駅)		小平	6	4	10	12	32
10月29日	中野区勤労福祉会館(JR中央線・東西線中野駅)		杉並	2	20	1	16	39
10月31日	東青梅センタービル3階会議室(JR青梅線東青梅駅)		立川	6	5	21	13	45
10月31日	三鷹産業プラザ(JR中央線三鷹駅)	庄司順一	杉並	2	27	1	11	41
10月31日	調布市文化会館たづくり8階映像シアター(京王線調布駅)		多摩	4	12	3	14	33
11月5日	中央区役所会議室(有楽町線新富町、日比谷線築地駅)		センター	1	4	2	27	34
11月6日	コア・池袋(豊島区民センター)音楽室(JR山手線池袋駅)		センター	2	19	13	55	89
11月7日	児童養護施設東京サレジオ学園集会所(JR中央線国分寺駅)		小平	8	4	0	6	18
11月8日	江東区南砂子ども家庭支援センター(東西線南砂町駅)		墨田	5	6	0	15	26
11月8日	杉並児童相談所(JR中央線・丸の内線荻窪駅)		杉並	6	16	14	16	52
11月8日	品川区立中小企業センター2階大講習室(JR京浜東北線大井町駅、東急大井町線下神明駅)		品川	3	4	42	12	61
11月10日	武蔵野市中央コミュニティセンター(JR中央線三鷹駅)		杉並	6	12	1	20	39
11月11日	江戸川区総合文化センター(JR総武線新小岩駅)		墨田	0	0	45	35	80
11月13日	男女平等推進センター(ウイメンズパル)多目的ホール(京成線お花茶屋駅)		足立	9	13	15	22	59
11月14日	大久保地域センター(JR山手線新大久保駅、都営大江戸線東新宿駅)		センター	0	6	40	16	62
11月14日	府中市ふれあい会館(京王線府中駅)		多摩	1	9	21	30	61
11月15日	板橋区立グリーンホール(都営三田線板橋区役所前駅、東武東上線大塚駅)		北	1	0	0	13	14
11月15日	大田区役所2階会議室(JR京浜東北線、東急多摩川線、池上線蒲田駅)		品川	3	1	43	9	56
11月17日	町屋文化センター(千代田線・京成線・都営荒川線町屋駅)		北	4	4	0	14	22
11月19日	あきる野市中央公民館第6・7研修室(JR五日市線東秋留駅)		立川	9	4	8	20	41
11月25日	八王子市クリエイティブホール5階(JR中央線・京王線八王子駅)	加藤尚子	八王子	10	16	6	63	95
11月28日	赤坂区民センター(銀座線赤坂見附駅、青山一丁目駅)		センター	0	4	17	22	43
11月28日	狛江市役所4階特別会議室(小田急線狛江駅)		世田谷	2	7	4	14	27
11月29日	目黒区役所総合庁舎1階E会議室(東急東横線または日比谷線中目黒駅)	大場尚子	品川	4	2	24	14	44
12月6日	世田谷区役所第3庁舎3階プライムホール(東急世田谷線松陰神社前駅)		世田谷	6	15	47	24	92
12月8日	練馬区役所交流会場(西武池袋線練馬駅)		センター	1	7	3	49	60
1月26日	渋谷区役所A会議室(JR山手線渋谷駅)		センター	2	4	11	22	39
1月26日	府中市グリーンプラザ(京王線府中駅)		多摩	0	13	2	30	45
1月29日	小金井市前原暫定集会所施設A会議室(JR中央線武蔵小金井駅)		小平	9	4	1	15	29
2月5日	墨田区役所12階会議室(銀座線・都営浅草線浅草駅)		墨田	4	5	0	33	42
2月5日	国立市子ども家庭支援センター(JR南武線保谷駅)		立川	1	10	0	11	22
2月19日	増穂町子ども家庭支援センター		立川	2	2	9	9	22
2月23日	福生市商工会館		立川	4	8	13	8	33
3月3日	多摩市立健康センター(京王線聖蹟桜ヶ丘駅)		多摩	0	3	1	30	34
合 計				223	391	600	1087	2,301

平成20年度養育家庭体験発表会アンケート結果

質問	6/3 羽村	8/26 文京	9/8 昭島	9/20 狛江	9/25 江東	9/25 多摩	10/2 東大和	10/3 町田	10/3 国分寺	10/8 武蔵村山	10/9 北	10/10 台東	10/10 立川	10/10 足立	10/15 千代田	10/16 日野	10/21 東久留米	10/23 西東京
年齢																		
～20代	0	1	0	2	0	0	2	48	4	0	0	3	3	2	0	5	0	1
30代	0	1	1	0	1	5	2	5	2	0	4	1	0	1	0	6	1	3
40代	2	6	1	2	2	4	1	13	0	0	6	5	0	6	3	11	2	5
50代	10	7	5	2	3	10	3	20	0	1	1	8	5	5	4	10	3	3
60代～	10	8	1	13	4	7	4	22	1	6	9	34	5	3	13	6	8	4
不明・無回答	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
性別																		
男性	4	7	1	5	3	1	4	28	1	1	2	15	0	3	6	8	1	0
女性	18	16	6	12	7	25	8	78	6	5	18	33	13	13	13	29	13	16
不明・無回答	1	0	1	2	0	0	0	3	0	1	0	3	0	1	1	1	0	1
所属																		
養育家庭	2	0	3	0	1	1	6	5	0	0	0	0	2	2	0	5	0	0
フレッドホーム	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0
都職員	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0
区市町村職員	2	3	0	4	0	0	0	8	1	1	2	0	1	0	1	2	0	3
民生児童委員	11	11	0	12	0	0	0	26	0	6	0	18	6	0	16	0	7	5
主任児童委員	2	3	4	0	0	0	0	4	0	0	0	2	0	6	0	8	0	3
学生	0	0	0	0	0	0	2	47	3	0	0	1	2	1	0	3	0	2
一般	3	3	1	3	4	20	1	14	3	0	15	9	2	4	3	12	3	2
その他	2	1	0	0	5	4	1	4	0	0	2	17	0	2	0	8	3	1
不明・無回答	0	1	0	0	0	1	1	1	0	0	0	4	0	0	0	0	0	1
どこで、この体験発表会をお知りになりましたか？(複数回答可)																		
区報・市報で	14	8	3	7	6	10	1	17	1	2	2	17	2	1	10	11	3	6
都報で	1	2	1	4	0	0	2	3	0	0	9	10	1	1	4	1	1	1
ポスターで	0	1	0	0	0	0	0	5	0	1	0	5	0	1	0	0	2	0
チラシで	4	7	1	7	1	1	3	20	0	2	0	14	3	8	4	16	5	5
インターネットで	0	0	0	0	0	2	0	2	2	0	0	1	2	1	0	7	0	1
知人に勧められて	2	1	0	1	3	1	0	6	1	0	9	6	1	1	0	2	2	2
過去に参加	1	3	4	3	0	1	2	14	3	1	0	9	2	4	2	10	1	1
問い合わせた	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1
その他	4	7	0	0	0	10	4	54	0	1	2	7	5	4	4	3	2	2
不明・無回答	1	0	0	0	0	2	1	8	1	0	0	0	1	0	1	1	0	1
今日の体験発表会にいらした動機をお聞かせください。(複数回答可)																		
養育家庭になりたいと 思っていたから	0	1	1	0	3	0	0	4	2	0	0	1	1	3	1	3	2	1
養育家庭制度に興味・ 関心があったから	13	11	3	7	3	10	1	23	4	4	16	23	6	7	7	12	7	8
子育てに関わる話が 聞けると思ったから	9	2	3	8	0	11	7	28	1	2	3	21	3	8	4	11	7	8
仕事や学問などの参 考にするため	8	8	2	9	2	4	2	56	4	1	2	10	1	6	6	11	3	4
その他	2	5	0	0	2	2	0	18	0	0	0	5	3	0	2	4	0	0
不明・無回答	0	1	0	1	1	3	2	4	0	0	0	0	1	0	0	3	0	1
今日の体験発表会の感想をお聞かせください。																		
とても良かった	13	14	4	10	6	20	10	57	5	2	10	26	10	12	8	24	9	12
良かった	7	8	3	8	1	6	2	38	1	2	7	19	2	5	9	8	2	1
普通	1	1	0	0	1	0	0	5	0	1	1	1	0	0	2	1	0	0
あまり良くなかった	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
良くなかった	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
不明・無回答	2	0	1	1	2	0	0	8	1	2	2	5	1	0	1	5	3	4
感想	10	10	4	9	4	16	5	58	4	4	15	26	5	14	8	19	5	6
アンケート回答	23	23	8	19	10	26	12	109	7	7	20	51	13	17	20	38	14	17
参加者総数	44	47	20	26	26	38	23	148	20	18	21	69	28	29	27	60	41	31

平成20年度養育家庭体験発表会アンケート結果

質問	10/25 清瀬	10/25 稲城	10/28 東村山	10/29 中野	10/31 青梅	10/31 三鷹	10/31 調布	11/5 中央	11/6 豊島	11/7 小平	11/8 江東	11/8 杉並	11/8 品川	11/10 武蔵野	11/11 江戸川	11/13 葛飾	11/14 新宿	11/14 府中	
年齢	～20代	1	1	3	2	0	1	4	1	5	0	1	3	3	3	4	1	4	0
	30代	0	2	2	1	1	3	1	3	3	1	0	4	2	2	1	3	0	3
	40代	4	1	2	6	3	10	4	4	2	2	2	5	5	8	5	9	4	4
	50代	1	7	6	4	9	8	4	5	4	0	2	10	20	2	14	13	11	8
	60代～	5	8	6	3	12	3	2	7	14	2	4	6	27	5	32	3	19	29
	不明・無回答	0	0	0	0	0	1	0	0	5	0	0	0	0	0	1	0	0	1
性別	男性	3	5	2	2	11	5	2	5	5	1	2	3	10	2	7	7	1	11
	女性	8	14	17	14	14	20	12	14	26	4	6	24	47	18	49	21	36	32
	不明・無回答	0	0	0	0	0	1	1	1	2	0	1	1	0	0	1	1	1	2
所属	養育家庭	3	2	0	0	3	1	2	0	0	1	2	2	3	3	1	4	0	0
	フレットホーム	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	都職員	0	0	0	1	3	2	0	1	1	0	0	1	2	0	3	1	2	0
	区市町村職員	1	0	0	1	0	10	2	4	1	2	0	1	4	0	3	0	0	5
	民生児童委員	0	7	4	0	14	1	0	2	20	0	1	8	31	0	29	3	26	17
	主任児童委員	0	2	2	1	1	0	2	0	1	0	0	6	9	1	7	8	7	1
	学生	4	1	2	2	0	0	2	1	2	0	0	2	2	2	7	1	0	0
	一般	3	7	8	11	3	5	4	6	4	2	5	7	5	9	4	11	1	14
	その他	0	0	3	0	0	3	3	3	3	0	1	1	0	4	2	1	1	6
	不明・無回答	0	0	0	0	1	3	0	3	1	0	0	1	1	1	0	1	2	
どこで、この体験発表会をお知りになりましたか？(複数回答可)																			
	区報・市報で	4	6	9	6	9	11	1	7	10	1	1	9	21	6	11	10	5	13
	都報で	0	3	1	5	3	3	2	4	0	2	5	6	4	4	2	0	4	
	ポスターで	0	0	0	0	1	1	0	1	1	0	0	6	0	1	1	0	1	
	チラシで	2	1	7	3	3	7	4	3	12	2	0	9	15	4	16	14	2	14
	インターネットで	0	1	1	0	0	5	2	0	1	1	3	1	1	0	0	0	2	1
	知人に勧められて	2	4	2	0	1	2	1	0	2	0	0	3	4	3	5	1	2	4
	過去に参加	0	1	4	3	7	6	3	2	5	1	0	4	8	1	13	2	6	4
	問い合わせた	0	0	0	1	0	1	1	1	1	0	0	1	2	0	2	1	5	0
	その他	0	1	0	2	8	4	3	7	6	0	3	5	15	3	14	6	16	9
	不明・無回答	3	2	0	0	0	0	0	2	2	0	1	0	0	0	1	1	0	2
今日の体験発表会にいらした動機をお聞かせください。(複数回答可)																			
	養育家庭になりたいと 思っていたから	0	3	1	5	0	3	0	1	1	1	2	4	2	1	5	1	2	
	養育家庭制度に興味・関心があったから	2	10	8	9	13	10	6	9	15	4	4	15	25	11	21	18	9	21
	子育てに関わる話が聞けると思ったから	3	8	6	1	7	3	4	4	13	1	4	4	23	4	23	9	13	17
	仕事や学問などの参考にするため	4	4	4	3	5	16	5	3	4	1	2	9	10	4	12	4	12	16
	その他	0	0	4	1	5	5	1	3	0	1	0	3	4	1	7	0	3	3
	不明・無回答	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	2	3	1	0	1
今日の体験発表会の感想をお聞かせください。																			
	とても良かった	8	6	16	9	12	12	9	5	17	5	5	17	39	10	24	19	10	30
	良かった	2	10	2	7	8	12	5	11	13	0	2	10	12	7	21	6	24	10
	普通	0	1	0	0	2	0	0	1	0	0	0	1	1	0	5	0	1	0
	あまり良くなかった	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	1	0
	良くなかった	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	不明・無回答	1	2	1	0	3	2	1	3	2	0	2	0	5	3	6	4	2	5
感想		7	9	11	8	14	13	7	9	15	3	7	15	35	9	24	16	12	30
アンケート回答		11	19	19	16	25	26	15	20	33	5	9	28	57	20	57	29	38	45
参加者総数		25	29	32	39	45	41	33	34	89	18	26	52	61	39	80	59	62	61

平成20年度養育家庭体験発表会アンケート結果

質問	11/15 板橋	11/15 大田	11/17 荒川	11/19 あきる野	11/25 八王子	11/28 港	11/28 狛江	11/29 目黒	12/6 世田谷	12/8 練馬	1/26 渋谷	1/26 府中	1/29 小金井	2/5 墨田	2/5 国立	2/19 瑞穂	2/23 福生	3/3 多摩	総計
年齢 ~20代	2	0	1	2	6	3	5	1	1	1	4	3	3	3	2	1	0	2	148
30代	1	3	4	3	8	3	3	4	8	9	3	6	1	2	0	2	1	4	130
40代	1	1	4	3	11	7	4	3	9	7	1	4	4	8	0	0	3	4	223
50代	3	12	5	8	12	5	4	13	17	9	3	8	1	9	3	5	4	5	354
60代~	3	30	0	6	14	10	2	15	17	4	3	6	0	2	1	5	10	11	484
不明・無回答	0	1	1	0	1	2	1	0	1	0	0	2	0	5	0	0	0	0	25
性別 男性	2	8	1	2	8	4	4	3	8	1	3	4	4	9	1	2	3	0	241
女性	8	36	14	18	42	25	15	32	44	29	10	25	5	20	2	9	15	25	1,079
不明・無回答	0	3	1	2	2	1	0	1	1	0	1	0	0	0	3	2	0	1	45
所属 養育家庭	1	3	1	4	5	0	2	2	2	0	0	0	0	2	0	0	0	0	76
フレンドホーム	0	0	0	0	2	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	8
都職員	0	0	0	0	1	0	0	0	1	1	0	0	1	1	0	0	0	3	29
区市町村職員	0	0	9	4	6	0	9	1	2	3	2	9	0	2	0	0	1	0	110
民生児童委員	1	33	0	4	2	13	2	15	19	1	1	6	0	2	0	7	10	1	398
主任児童委員	0	5	1	4	3	2	0	8	12	1	1	1	1	0	0	1	3	0	123
学生	1	0	1	0	3	3	1	1	2	1	2	0	3	1	1	1	0	0	110
一般	6	6	2	3	23	8	2	8	14	18	2	11	0	12	3	4	3	17	353
その他	1	0	1	3	7	1	2	0	0	3	2	2	1	7	2	0	0	4	117
不明・無回答	0	0	1	0	1	3	1	0	1	2	4	0	3	1	0	0	1	1	42
どこで、この体験発表会をお知りになりましたか？(複数回答可)																			0
区報・市報で	4	14	9	7	10	6	6	11	15	7	1	2	0	8	2	8	2	9	382
都報で	4	10	0	1	2	3	0	2	6	3	1	0	0	2	2	1	1	0	130
ポスターで	0	2	0	0	2	4	1	1	6	0	0	2	2	1	0	2	0	0	51
チラシで	3	11	5	5	17	2	3	10	7	6	7	17	2	5	1	1	8	5	334
インターネットで	0	1	0	0	2	2	0	3	6	4	2	0	2	6	0	1	1	1	68
知人に勧められて	0	2	0	1	12	8	4	2	6	2	4	7	0	2	1	1	1	1	128
過去に参加	1	10	0	7	9	1	4	7	5	3	1	1	2	4	0	3	1	1	191
問い合わせた	1	0	0	0	1	1	0	2	0	1	0	1	1	3	0	0	0	0	32
その他	1	10	1	4	7	6	8	7	5	5	1	2	0	4	0	0	4	12	288
不明・無回答	0	0	2	0	2	2	0	0	0	0	1	2	0	0	0	0	0	0	40
今日の体験発表会にいらした動機をお聞かせください。(複数回答可)																			0
養育家庭になりたいと思っていたから	1	3	0	0	7	6	1	6	3	2	1	2	4	2	1	0	0	0	95
養育家庭制度に興味・関心があったから	2	20	4	9	16	13	8	15	29	21	5	15	1	13	3	6	11	11	577
子育てに関わる話が聞けると思ったから	6	15	1	11	20	9	6	13	16	9	4	14	1	7	2	5	6	11	439
仕事や学問などの参考にするため	0	7	7	7	17	10	8	5	7	4	7	8	4	8	3	5	2	8	374
その他	1	7	2	6	5	3	2	2	2	2	1	1	0	2	0	0	2	4	126
不明・無回答	0	0	2	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	36
今日の体験発表会の感想をお聞かせください。																			0
とても良かった	6	14	8	17	34	15	12	26	37	15	10	17	6	18	2	10	5	18	775
良かった	3	28	6	3	13	9	4	5	13	13	3	11	2	6	3	2	12	7	434
普通	0	3	1	0	0	2	0	1	0	1	1	1	0	1	1	0	0	0	38
あまり良くなかった	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
良くなかった	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
不明・無回答	1	2	1	2	5	4	3	4	3	1	0	0	1	4	0	1	1	1	114
感想	5	13	5	12	27	18	8	25	25	19	10	13	2	15	2	9	10	21	705
アンケート回答	10	47	16	22	52	30	19	35	53	30	14	29	9	29	6	13	18	26	1,365
参加者総数	14	56	22	41	95	43	27	44	92	60	39	45	29	42	22	22	33	34	2,301

養育家庭制度は、いろいろな理由で親と一緒に暮らすことのできない子どもたちを養子縁組を目的としないで、家庭に迎え一緒に生活し、養育していただく里親制度です。

【ほっとファミリー(養育家庭)を、詳しく知りたい。】

★ 申し込み資格はあるの？

- 都内にお住まいで 25 歳以上 65 歳未満のご夫婦。
※ただし、65 歳以上であっても短期条件付・レスパイト限定付にお申し込みできます。
配偶者がいない場合は、子どもの養育経験又は保育士や看護師の資格があり、かつ、養育の補助ができる 20 歳以上の子又は父母等が同居している方。
- 居室が 2 室 10 畳以上ある。

★ お預かりいただく子どもは？

- 親の離婚、家出、病気、虐待等の理由で、親と一緒に暮らすことができない、おむね 18 歳までの子どもです。

★ お預かりいただく期間は？

- 原則として 1 か月以上です。
- 2 年を超える場合、2 年ごとに子どもを継続して預かるかどうかの意思を確認させていただきます。

★ 養育に係る費用は？

- 日常生活や教育費などの養育費は、児童養護施設等に入所している児童と同等の額が支払われます。
- 養育家庭への手当が支払われます。

★ 養育に必要な支援は？

- 児童相談所が中心となって支援を行います。
- 養育に疲れた場合には、子どもの養育を一時的に休息できます。
- ほっとファミリーどうしが集う相互交流の機会があります。
- 経験豊富なほっとファミリーが電話で相談に応じます。
- 研修などに参加し、養育に必要な知識を学ぶことができます。

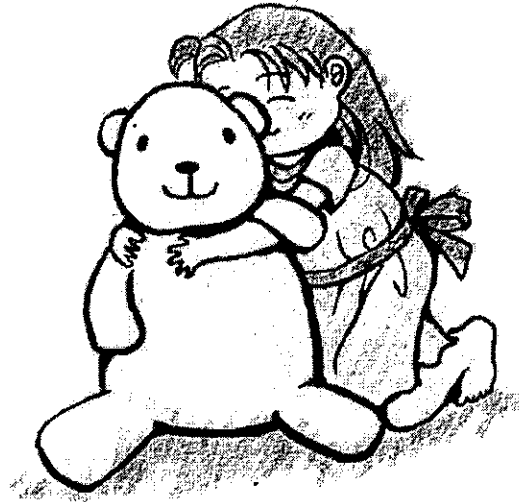
【養育家庭制度に関するお問い合わせ先】

東京都福祉保健局 少子社会対策部 育成支援課 里親担当

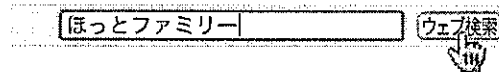
〒163-8001 新宿区西新宿二丁目 8 番 1 号

電話 03-5320-4135

<http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/kodomo/satooya/seido/hotfamily/index.html>



こちらのホームページもご覧下さい。
<http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/kodomo/satooya/seido/hotfamily/index.html>



育家庭体験発表集
成21年9月発行

登録番号(21)166

行 東京都福祉保健局 少子社会対策部 育成支援課
東京都新宿区西新宿2-8-1
電話03(5320)4135 FAX03(5388)1406
刷所 東京都大田福祉工場
東京都大田区大森西2-22-26
電話03(3762)7611

石油系溶剤を含まないインキを使用しています。